

反動的・破産的本質をさらけ出した『小屋原交渉団』

動労千葉の闘いは六月一日「公労委正式認可」、六月二〇日「三六協定」締結、六月二六日「申五号」団交、そして、六月二八日蘇我支部結成と、ますます力強く前進しています。全国大会もまぢかにせまり、本部の指導責任が問われるに至り、いまやなすすべも失い、展望なき状況におちいった動労「本部」は、窮余の策として七月二日一時よりの千葉局交渉なるものをデッチ上げてきました。

当局もあきれる、「何もわからない」「幻の交渉団」!!

今回のこのデッチ上げ「千葉局交渉」の意図はミエミエです。それは「再建千葉地本」はもとより、「再建支部」・「再建分科会」の旗上げの展望すら全くないままにズルズルと全国動員による成果なき「オルグ」を強制している現状の中で、日々刻々増大する全国の組合員の不満、批判をそらすという狙い以外のなにものでもありません。せいぜい「本部」デマ情報に、またまた「千葉組合員を説明員に千葉鉄局と交渉」とでも書きなぐり、全国の組合員をだまし、あたかも「再建オルグ」の成果はあがっているかのようなデマをねつ造するのが関の山でしょう。

しかし、こうした浅知恵はすぐに破産するものです。七月二日、動労「本部」小屋原交渉部長と今井交渉部員は千葉に關係のない東京地本執行委員・緒方以下、青年部革マル分子数名をひきつれ、千葉局へやってきたのです。

そして当局に対し「銚子支部から団交説明員がくるから、交渉をやってほしい」とたのみ込んだのでありました。

しかし銚子からは当然誰ひとりとしてくる者はおらず、千葉鉄局団交室内でオロオロ、ウロウロするばかりで無駄な時間を過していたのです。

今井交渉部員にいたっては、せっかく千葉鉄局まできたのだからなんとか交渉を行ったという体裁だけでもとりつこうとして、よせばいいのに当局に「銚子の夏季輸送に係わる事案を説明してほしい」とすがりつこうとしたまではよかったです。逆にならば何ら千葉の仕業内容の基本的な事さえ何一つ知りもしないという貧弱な内実をさらけ出してしまったのでした。当局に「銚子は夏季輸送に直接関係ありません。したがって労働条件も変わりません」と答えられると「なんにもなくてはいかたがない」とスゴスゴとひきさがる仕末でした。結局たのみの銚子支部説明員もやってこずなにもせずにブザマな姿をさらけだして帰って行きました。これにはさすがの当局も他労組も「一体動労『本部』はなにをしにきたのだ」「千葉を代表する、などと言われても何も知らないのでは話にもならない」とあきれてはてしています。

「銚子」の名前だけ利用し、デマ宣伝!

この事実こそ「小屋原交渉団」の本性をあますところなく暴露したものと いえます。それは「千葉組合員の利益を守る」と称して、実は、銚子支部の名を騙り、あたかも銚子支部が「本部」にいたかのように見せかけ全国の組合員をだます為のみに交渉を利用するものであり、もと「千葉組合員の利益など」毛頭考えていないということをさらけ出したものです。そもそも、20に千葉地本執行部を執行権停止にして以来「本部」が千葉の労働条件を守り、向上させようとしたことが一度でもあったでしょうか。銚子や佐倉の名をかたり、動労千葉の団交を妨害し、組合員の利益をぶちこわす「小屋原交渉団」の策動を許さず前進しましょう。

労農連帯を一層強め、三里塚・ジェット闘争を貫徹しよう!

「銚子支部」の名をかたってまで「交渉」をデッチ上げる『本部』

動労交発第11号
1979年6月1日

国鉄動力車労働組合

銚子支部委員長殿

国鉄動力車労働組合

中央執行委員長 林 大 鳳

千葉局交渉への説明員の参加要請について

本部は、この間千葉局との間で昇給問題、夏臨問題、総武本線々増切替工事などについて、正式な団体交渉を展開してきた。

なお、支配に於ける諸問題の解決に向け努力する事とするので、次の内容での説明員の出席を要請するので遺憾のないよう対処されたい。

記

- 1 日 時 別途連絡する。
- 2 場 所 千葉局団交室
- 3 出席者 最速も名程度の説明員の出席とする。
- 4 内 容 銚子支部に於ける諸問題の解決を促進できるよう準備されたい。
- 5 動 務 団交扱いについては事後処理とするので、勤務の繰配をすること。

以上

「銚子支部」の名も仰々しい動労「本部」の交渉発。
まるで「本部側支部」であるかのような全国向け宣伝!!